

今回は、レッジオエミリアというイタリアの幼児教育メソッドの根源となっている詩をご紹介します。

「冗談じゃない。百のものはここにある。」

子どもは百のものでつくられている。

子どもは 百の言葉を 百の手を 百の思いを 百の考え方を 百の遊び方や話し方を持っている。

百、何もかもが百。

聞き方も 驚き方も愛し方も 理解し歌うときの 喜びも百。

発見すべき世界も百。 発明すべき世界も百。 夢見る世界も百。

子どもは百の言葉を持っている。（ほかにも、いろいろ百、百、百）

けれども、その九十九は奪われる。

学校も文化も 頭と身体を分けこう教える。

手を使わないで考えなさい。

頭を使わないでやりなさい。

話をしないで聴きなさい。

楽しまないで理解しなさい。

愛したり驚いたりするのは

イースターとクリスマスのときだけにしなさい。

こうも教える。

すでにある世界を発見しなさい。

そして百の世界から

九十九を奪ってしまう。

こうも教える。

遊びと仕事

現実とファンタジー

科学と発明

空と大地

理性と夢

これらはみんな

共にあることは

できないんだよと。

つまり、こう教える。

百のものはないと。

子どもは答える。

冗談じゃない。百のものはここにある。